

KNEWS

倉敷中央病院広報誌

Take Free

#56

2023.6



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院

100th Anniversary



100年紡ぐ、 想いがある。

わたしたちは、100年前、大原孫三郎から託された理念を継承し、時を超え、地域とともに歩んできました。
よりよい医療を目指し、常に絶やさず紡いできた創造と変革の精神は、厳しい時代を乗り越える力となりました。
わたしたちには、使命があります。世界水準の医療を通じて、人々の健康を支え、安心して暮らせる毎日を届けることです。
そのために、これからも挑戦し、進歩し続けます。



大原 孫三郎

倉敷中央病院は、1923年（大正12年）6月2日、倉敷紡績株式会社社長、大原孫三郎によって創立されました。

何事にも最高を求めた大原は、病院建設にあたり、「治療本位（研究目的でない、真に患者のための治療）」「病院くさくない明るい病院」「東洋一の理想的な病院」という3つの設計理念を打ち出しました。

大原は創立10周年の所感として「現状に満足することは退歩の第一歩である。中央病院

の関係者は常に絶えず進歩する人でありたい」と述べています。われわれ職員はそれにこたえるべく、日々の医療はもちろん、その後の建物の増改築に際しても、創立者の理想とした「患者本位」を、その時代時代にふさわしい形で受け継ぐことを使命としています。社会的な構造改革が求められ、医療界にも大きな変革が実施されつつある現在、真の地域医療連携を基盤とした急性期基幹病院の実現が、本院の進むべき道と考えています。

倉敷中央病院

100年の歩み

1923 (大正12) 倉敷中央病院（83床）として創立
関東大震災に救援のため横浜へ救護班を派遣

1945 (昭和20) 空襲による傷病者救援のため、救護班を出動

1951 (昭和26) 結核予防法指定医療機関に指定

1963 (昭和38) 創立40周年記念式典を挙行
大原総一郎理事長が50周年に向けて
新病院建設の決意表明を行う



1975 (昭和50) 石油ショックを乗り越え、第1棟（692床）完成
（総病床数903床）



1987 (昭和62) 総合保健管理センター（健診施設）を開設

1999 (平成11) 第二種感染症指定医療機関（10床）の指定を受ける

2003 (平成15) (現)倉敷中央病院リバーサイド開院（140床）



2008 (平成20) 地域医療支援病院の承認を受ける

2013 (平成25) 「公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構」へ変更
救命救急センターに指定、脳死下臓器提供
（当院1例目）

2014 (平成26) 手術支援ロボットダ・ヴィンチ導入

2016 (平成28) 国際的な医療機能評価JCIの認定を取得



2018 (平成30) 西日本豪雨にて当内における非常事態宣言発令、
災害対策本部を設置



2019 (令和元) 倉敷中央病院付属予防医療プラザ開業



2023 (令和5) 6月に創立100年を迎える



公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構
理事長 浜野 潤

倉敷中央病院は今年で100周年を迎えました。これもひとえに倉敷中央病院をご利用いただいた患者の皆さまやご家族はもとより、医師会をはじめ、さまざまな面で当院をご支援いただきました地域の皆さまのお力添え、行政や企業などのご助力によるものと、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

100年の時を刻むことができたのは地域の皆さまの倉敷中央病院に対する信頼のおかげです。倉中なら高度で先進的な医療を受けられる、重篤な病気であっても倉中なら何とかしてくれるという信頼感があったからこそ、当院を選んでいただけたのだと思います。医療の分野でも技術革新は猛烈なスピードで進展しています。私たちは100周年を機に決意を新たに世界水準の質の高い医療を求めて果敢に挑戦を続け、地域の皆さまにより良い医療を提供し続ける所存です。

創立者大原孫三郎が最もこだわったのが、病院らしくない明るい病院をつくることでした。当院を訪れた方が皆さん驚かれるのが、この病院の居心地の良さです。私たちも創立者の志を大事に引き継ぎ、アメニティに配慮した「快適に過ごせる」病院づくりを進めてきました。これからも施設や機能のみならず患者の皆さまやご家族の心と通じ合う医療、人の心を大事にする医療に取り組んでまいります。

人生100年時代を迎え、老若男女が健康で心豊かに人生を送るためには、良い病院が不可欠です。地域に活力がある、住民が生き生きとした生活を送っているということ、その地域に良い病院があるということは、どちらが欠けてもうまくいきません。倉敷中央病院は地域とともに歩み続ける病院として、地域のために貢献してまいります。

当院は地域医療の担い手である医療機関と連携して、お互いが得意なところを伸ばしあいながらともに発展していく地域医療のネットワーク作りを進めています。患者の皆さまはまず身近の医療機関で診療を受け、必要な場合には倉敷中央病院で治療を受け、また身近の医療機関に戻るという形で負担感が少なく切れ目のない医療を受けることができます。こうしたネットワークができれば地域のどこにいても安心して生活していただけるのではないのでしょうか。

倉敷は文化のまち、工業のまちなどさまざまな顔を持っています。これからの100年を見据えると、倉敷中央病院と医療機関、医療関係企業などが集積した「医療のまち倉敷」ができればと考えています。

今後とも引き続き、倉敷中央病院への変わらぬご協力ご支援をお願い申し上げます。

創立を 100周年 迎えて



院長 山形 専

日頃から当院をご利用、ご支援をいただき有難うございます。

当院はこの6月2日に創立から100年を迎えました。当初大原孫三郎は、倉敷紡績で働く職員とご家族の健康管理と病気の予防のために病院の創立を決意しました。

奇しくもそのころ、日本でもパンデミックとなっていたスペイン風邪が当地域でも流行し、多くの方が亡くなりました。この地域に対応できる病院や医療施設がなく、市民が十分な医療を受けることができなかった状況にあったことを受けて、当院は市民にも開放されました。これまでの100年は関東大震災、第二次世界大戦やその後の医師を含む医療者不足、世界恐慌や石油危機などの経済不況があり、大きな経営危機に幾度となく直面した時期もありましたが、職員の努力と多くの市民の皆さまに支えられ今日を迎えております。

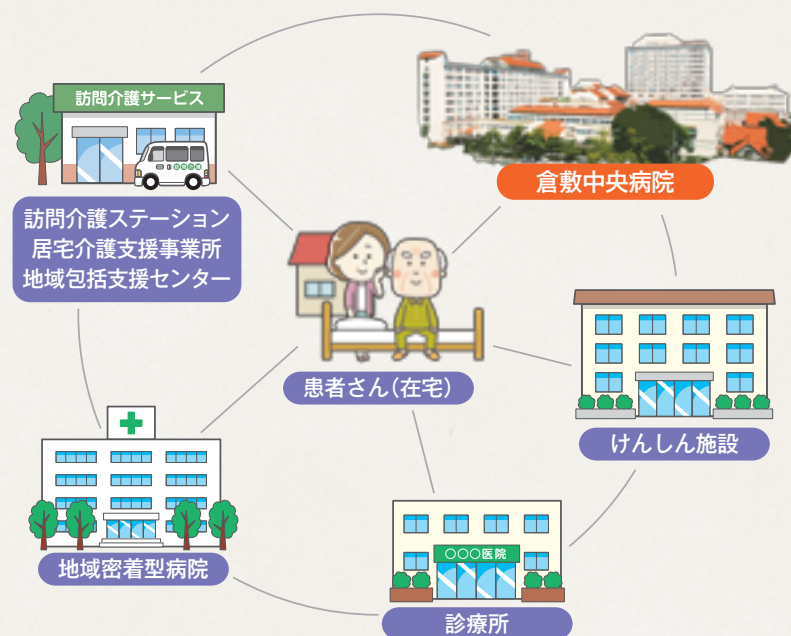
現在、当院は高度先進医療の提供、救命救急医療への対応、予防先制医療の取り組みを中心に、近隣の多くの医療機関と協力しながら地域に密着して市民の皆さまへの医療と健康維持に努めております。

これからの100年は急速に進行する少子高齢化を伴う人口減少、日本経済の不安定化、社会保障費の制限、国民皆保険制度の制度疲労などを考えれば、これまでとは比べ物にならない激動の変化の連続に見舞われると思われれます。このような苦境に陥ったときには当院創立の理念に立ち返り、市民にとって当院の使命と存在意義をしっかりと見極めながら、市民の皆さまとともに乗り越えてゆければと思います。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

次の100年へ、 当院が目指す 地域医療の未来

「地域医療エコシステム」

当院単独で、
全ての医療領域を担うことは難しい。
しかし、地域の医療機関が連携し、
それぞれが得意とする領域で
患者さんを診ることにより、
より良い医療が提供できると考えています。
「地域医療エコシステム」とは、
地域の医療をひとつの大きな
ネットワークでつなぎ、
継ぎ目のない医療を実現することです。



当院が目指す「地域医療エコシステム」のイメージ

地域医療エコシステムのなかで、わたしたちが担う5つの機能

- ### 1 高度先進医療

手術支援ロボット「ダヴィンチ」等の低侵襲治療や、遺伝子検査によるがんゲノム医療を推進しています。
- ### 2 救命救急医療

救急・手術・集中治療の領域では当院が担う役割が大きく、たゆまぬ改善を続けています。
- ### 3 高度なトリアージ

重傷度や治療緊急度に応じて、患者さんを各医療機関に振り分けることは、地域のなかで、当院が果たすことができる役割と考えています。
- ### 4 デスティネーション医療

患者さんが抱えるさまざまな病気や問題を病院全体で解決するため多職種がチームを形成し、高い専門性をもって診療科間を横断的に活動しています。
- ### 5 予防医療を活用した先制医療

倉敷中央病院附属予防医療プラザでは高度な検査技術による病気の早期発見や健康指導による病気の予防を推進しています。



倉敷中央病院100周年記念事業

倉敷中央病院は今年で創立100周年を迎えました。
これまでご支援いただいた、地域の皆さまに感謝の想いを込めて
100周年記念事業を展開します。詳細は当院WEBページで随時公開して行きます。



100年史発行 (2023年6月)

100年の歴史を記す記念誌を発行しました。創立の目的や戦中戦後の医療活動、石油ショックを乗り越えて完工した大型病棟、地域医療の要として急性期医療の特化・世界水準の医療を目指した現代までを網羅しています。

時空回廊IDEA100周年リニューアル (2023年6月2日)

創立90周年にオープンした理念や歴史を紹介するギャラリーをリニューアルしました。タッチパネル式の大ディスプレイで、気になる情報をご覧ください。場所は本院北西に位置する第1棟1階にあります。

ローソンオープン (2023年6月2日)

品揃えとサービスを充実させたローソンがオープンしました。皆さまに気持ちよく買い物をしていただけるよう、店内は木目調の温かみを感じられるデザイン、また通路幅は広く、商品棚の高さを低くする工夫をしています。

100周年記念リレーコンサート (2023年12月まで毎週木曜日12時から開催予定)

当院の職員や、地域の音楽愛好家の方々が出演するリレーコンサートを開催します。ピアノやギターなど、さまざまな楽器で奏でる音楽をはじめ、日本舞踊やフラダンスなども披露いただき、患者さんに癒しの時間をお届けします。

オープンホスピタル (2023年6月3日)

広く病院を知っていただくこと、医療に携わる職業を選んでいただくことを目的とし、地域の小中学生を対象に病院施設の見学やお仕事体験ができる「オープンホスピタル」を開催しました。来場者は2000人を超え、院内は子どもたちの元気な歓声や笑い声があふれました。

予防医療プラザ「健康フェア」(2024年3月開催予定)

予防医療プラザでは、昨年度より「健康フェア」を開催しております。今年度は100周年記念事業とコラボし、より盛大に、より多くの方にお越しいただけるように、スタッフ全員で意見交換会を行い、より良いサービスを提供いたします。皆さまに喜んでいただける企画を数多くご用意する予定ですので、ぜひご参加ください!



倉敷中央病院からのお知らせ



豪雨災害から病院を守り、医療を継続するための止水壁建設にご寄付を。

タイムリミットは約2時間

高梁川 酒津堤防が決壊すると、約2時間で病院まで水が到達して写真のような状況になります。

● 地域の医療を守るため

全国各地で近年、集中豪雨による被害が頻発しています。倉敷市のハザードマップによると、集中豪雨で



平常時

市内の高梁川が氾濫した場合、当院1階の床上約40cm程度が浸水するとされています。水没による機能不全に陥れば、長期にわたって入院中の患者さんの治療だけではなく、近隣からの救急搬送の受入れにも大きな支障が生じます。当院は地域の急性期医療の多くを担っており、このような事態は避けなければなりません。



水害時

● 止水壁建設のためクラウドファンディングを開始しました。

工事金額は約15億円となりますが、補助金等はありません。すべて自助努力となり病院の運営には大きな負担となりますが、創立100周年の記念事業として、2022年10月より工事を進めており2024年5月に完工の予定です。この工事が完成しますと、万一高梁川の氾濫が発生し、この地域の医療が大きなダメージを受けたとしても、当院の入院患者さんのみならず、周辺の病院で治療を受けておられる患者さんや、ご自宅で療養をされている患者さんなど多くの人々に医療を継続できると確信しております。つきましては、洪水対策推進の趣旨にご賛同いただき、ご理解、ご寄付を賜りたいと存じます。

詳しくはWEBページよりご覧ください。



折り鶴に 祈りを込めて

命を守る止水壁プロジェクト

「折り鶴ウォール」

100年先を目指して、これからも皆さんと歩んでいく。

倉敷中央病院を支えてくださっている皆さんと一羽ずつ折り重ねていくことで、ともに歩んできたこの100年を振り返りながら、これから歩んでゆく100年を一緒に笑顔でいられるように、私たちと皆さんの共同作業としての第一歩とできればと思っています。

誰でも参加OK!

折り鶴ウォールの参加方法

お作りいただいた折り鶴を倉敷中央病院1階の8か所に設置している折り鶴ウォールに入れてください。▶▶▶

—— お問い合わせ ——
倉敷中央病院100周年記念推進室



公式SNSで情報発信中

市民公開講座の開催状況や疾患の解説記事、
当院で勤務する職員の紹介など、さまざまな
情報を公開していますので、ぜひご覧ください！

